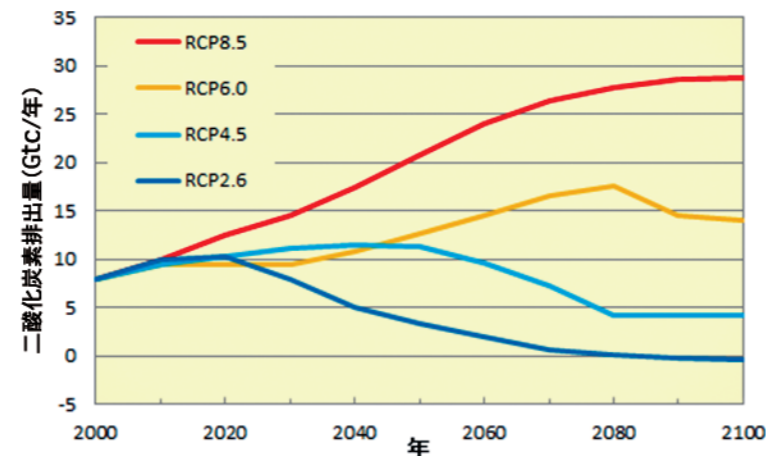


予測資料について

このリーフレットには、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減対策が今後ほとんど進まず、地球温暖化が最も進行する場合を想定して21世紀末の愛知県の気候を予測した結果を掲載しています。

予測に際しては、国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が2013年に公表した第5次評価報告書で採用した4つの温室効果ガス排出シナリオの中で最も排出量の多い「RCP8.5シナリオ」に基づいて、気候予測モデルを用いたコンピュータシミュレーションを実施しました。



4つのRCPシナリオそれぞれの二酸化炭素排出量の想定 (炭素重量換算)

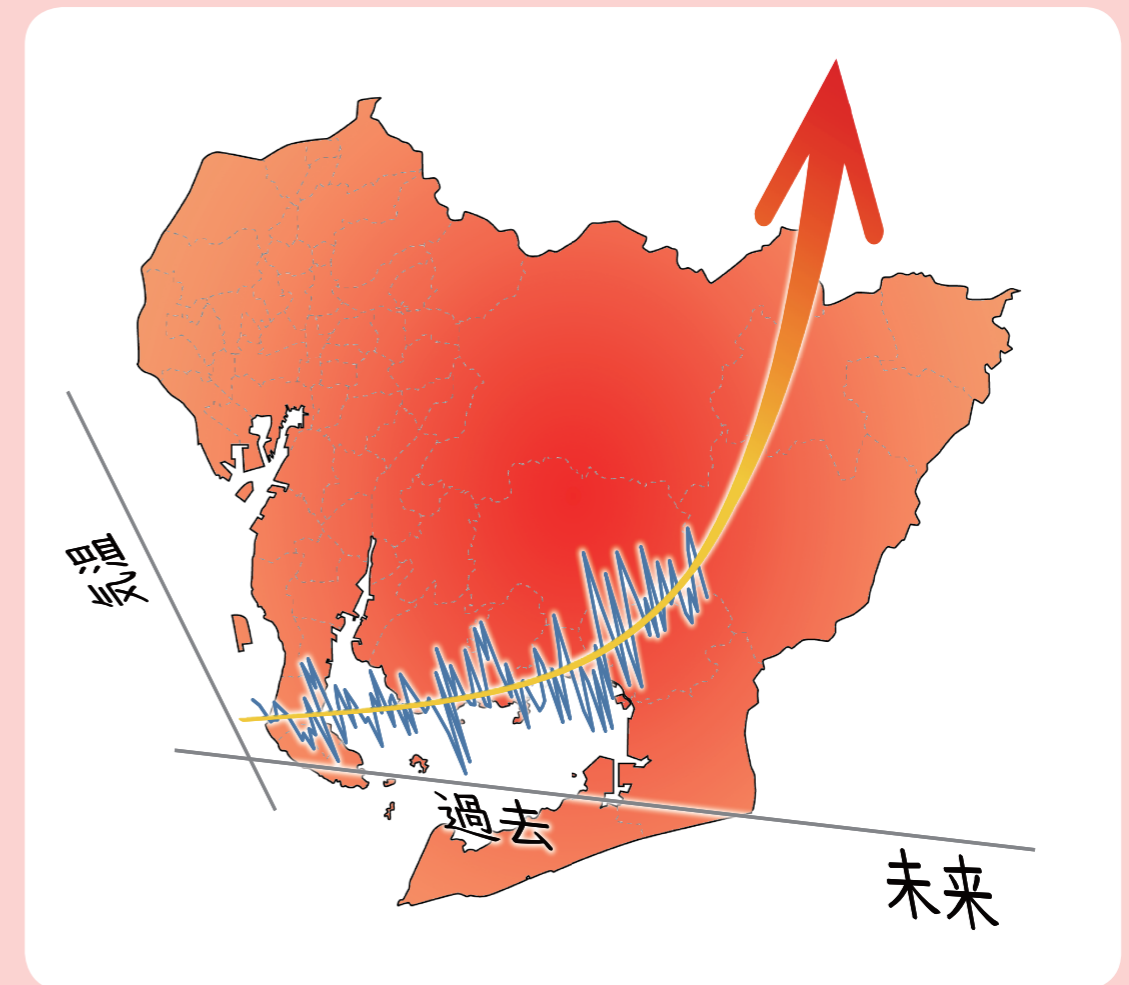
将来気候・現在気候・平年値について

将来気候	気候予測モデルによる21世紀末(2076~2095年)における気候の予測結果です。
現在気候	気候予測モデルが再現した20世紀末(1980~1999年)の気候です。実際の観測に基づく値とは異なります。
平年値	1981~2010年までの平均値で、実際の観測に基づく値です。

このリーフレットは印刷用の紙にリサイクルできます。

愛知県の21世紀末の気候

地球温暖化が最も進行する場合の 気温と降水の予測



全国版の情報はこちら

地球温暖化予測情報第9巻

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/GWP/index.html>



名古屋地方気象台

愛知県名古屋市千種区日和町 2-18

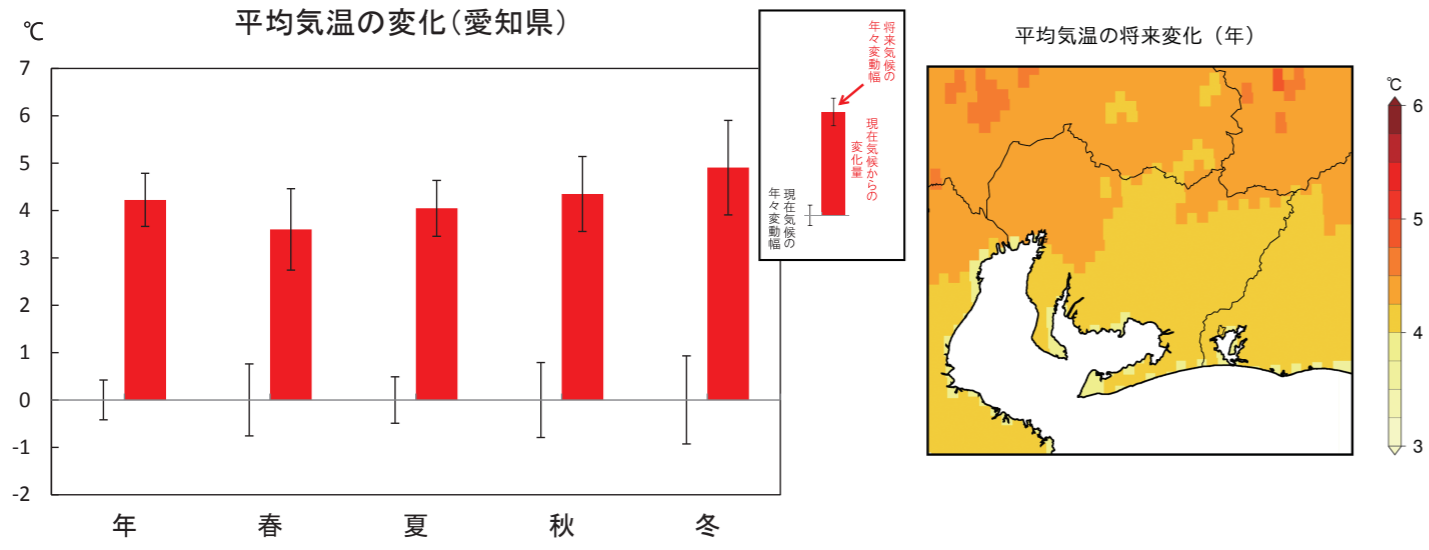
TEL : 052-751-5125

地球温暖化が最も進行する場合の

気温の予測

▷ 愛知県では年平均気温が現在より約4℃上昇

※名古屋市における年平均気温のこれまでの変化は100年あたり2.1℃の上昇(1891～2017年における長期変化傾向)

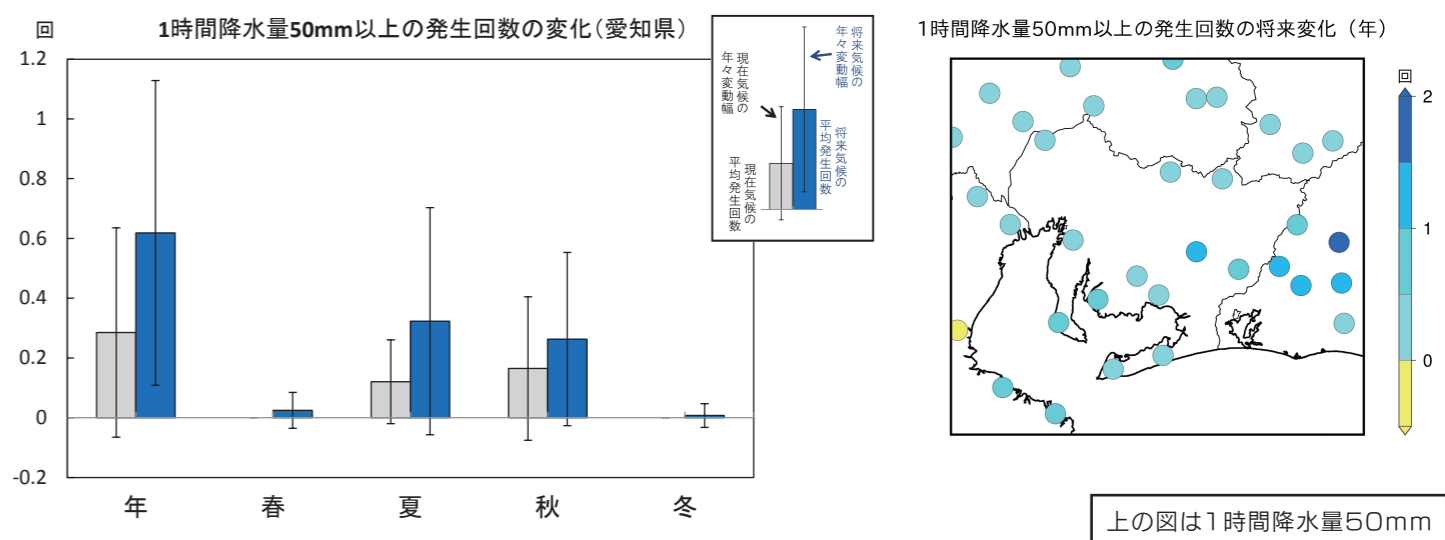


地球温暖化が最も進行する場合の

降水の予測

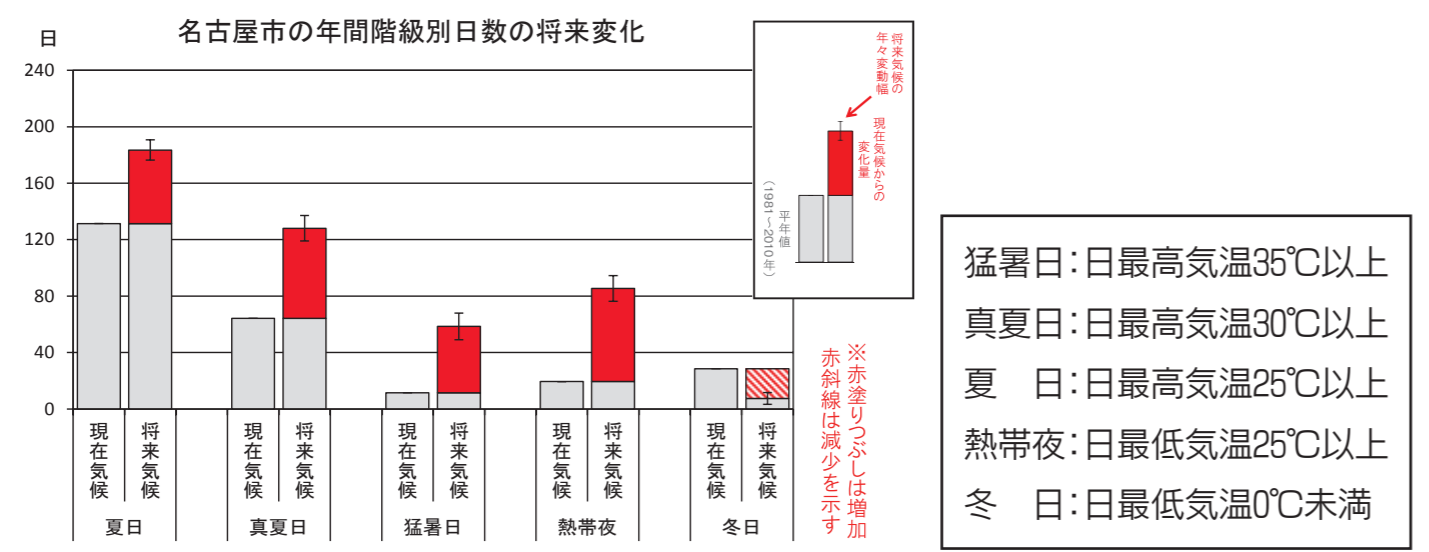
▷ 愛知県では滝のように降る雨の発生が現在の約2倍に

※滝のように降る雨: 1時間降水量50mm以上



上の図は1時間降水量50mm以上の発生回数、下の図は無降水日数について、将来変化(将来気候と現在気候の差)のアメダス地点ごとの予測を示します。ただし、増加・減少の傾向が不明瞭であった地点は記載していません。なお、1地点の変化に注目せず、全体的な傾向を見るようにしてください。

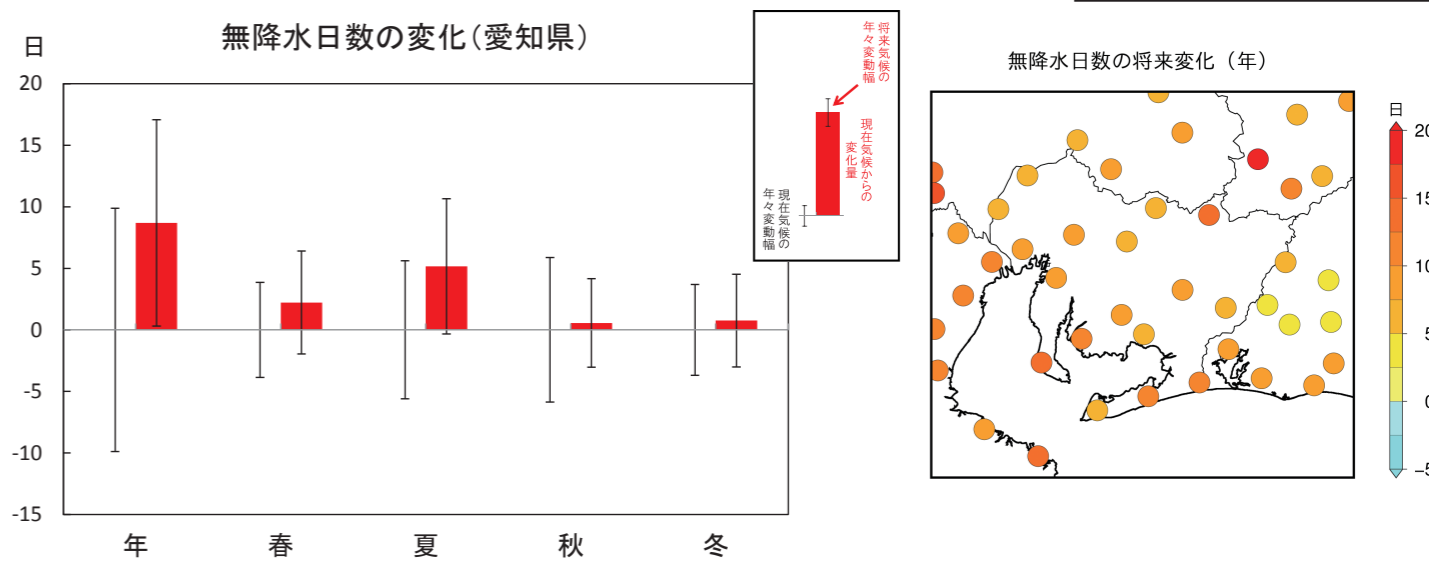
▷ 名古屋市では猛暑日が現在より40日以上増加



真夏日・夏日・熱帯夜はいずれも約60日増加

▷ 愛知県では降水の無い日も増加

※降水の無い日(無降水日): 日降水量1mm未満



➡ 産業や生態系など広い分野への大きな影響と健康被害の増大

➡ 大雨による災害発生や水不足などのリスクが増大